

第3章 取組事例

ここでは、第2章で点検・改善の視点ごとに紹介した各事例について、全体的な取組の概要・特徴や地域的な背景などが分かるようにまとめることにより、取組の意義や位置づけを明らかにします。

1 H大学附属小 中学校 (北海道)

学校概要

■ 規模

学校	学級数	児童等数	教職員数
小学校	12	478	22
小 特別支援学級	3	24	
中学校	9	374	21
中 特別支援学級	3	24	
合 計	27	900	43

■ 周辺状況・特徴

- H大学附属小 中学校は、田園地帯が広がる札幌市北端のH大学メインキャンパス内にある。
- H大学附属小 中学校の児童 生徒は、札幌市全域から通学している。

- ほとんどの児童生徒は、バス・地下鉄・JR・市電を利用して通学している。最寄り駅からは、本校専用バスが運行されている。
- その他の大学附属幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校は、他のキャンパス内に位置している。



小 中学校正門

取組のきっかけ

- 学校侵入事件をきっかけとして平成 13 年度にハード、ソフト両面から防犯対策の充実に努めてきた。5 年が経過し、各地で新たな事件も発生していることから、現行マニュアルの再点検を行っている。
- 本校の防犯対策の一層の充実に向けて、平成 18 年 6 月に文部科学省等が作成した「学校施設の防犯対策に関する点検・改善マニュアル作成に関する調査研究報告書」や文部科学省の「防犯マニュアル作成に関する支援事業」を活用して、実効性のある防犯マニュアルを作成することとした。それにより、他の同大学附属学校の防犯マニュアル作成の手本となることを目的としている。

検討体制の設置

- 点検・改善マニュアル作成の検討体制として、メンバーを学部内だけでなく、外部の専門家、有識者を積極的に加えて（計 14 人）構成した。

主な検討体制メンバー

学校関係者

- ・ H大学事務局総務部長、施設課長
- ・ H大学附属札幌小中学校校長、副校長、教員代表
- ・ H大学各附属副校園長

外部

- ・ 弁護士 ～司法の立場から、学校の危機管理と責任～
- ・ 警察 ～警察の立場から、学校の防犯対策全体～
- ・ 市教育委員会 ～市教委の立場から、市立校の防犯対策～
- ・ 警備会社 ～警備の立場から、学校警備・防犯対策～
- ・ 設計事務所 ～設計の立場から、学校施設の防犯対策～
- ・ P T A 会長 ～保護者の立場から学校防犯対策への願い～

検討会議

検討会議は、効率的な検討がなされるようにテーマを定め約3ヶ月の期間に4回の会議を実施した。

第1回：学校施設視察と問題点の指摘

第2回：点検・改善マニュアル案の検討
(含：施設の問題点の解消)

第3回：マニュアル案検討、視察報告
(含：改善箇所決定)

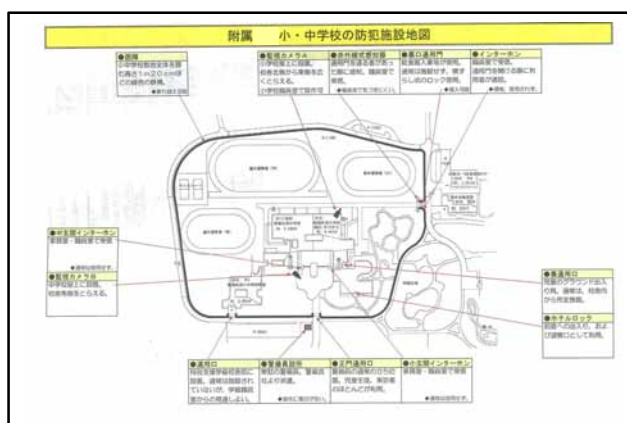
第4回：マニュアル案の最終検討

現状の把握と課題の抽出

現状の把握

●防犯施設地図の活用

初回到校舎内外の防犯施設の配置がわかる防犯施設地図をあらかじめ用意し、検討体制メンバー全員で施設を視察し、現状把握を行なった。



防犯施設地図

●ソフト面の対策の検証

不審者の侵入をいかに防ぐかをテーマに、正門警備員や玄関先事務室窓口の対応、玄関出入口の管理方法、来校者・保護者のIDカードの着用、保護者の巡回協力など、ソフト面の対策について現状確認と検証を行なった。

●保護者連絡網の検証

迅速かつ正確な情報伝達を行うため、携帯電話による保護者の一斉連絡網について検証を行っている。

●防犯訓練の検証

年1回実施する防犯訓練では、不審者の侵入はどこからでも発生するという想定のもと、教職員

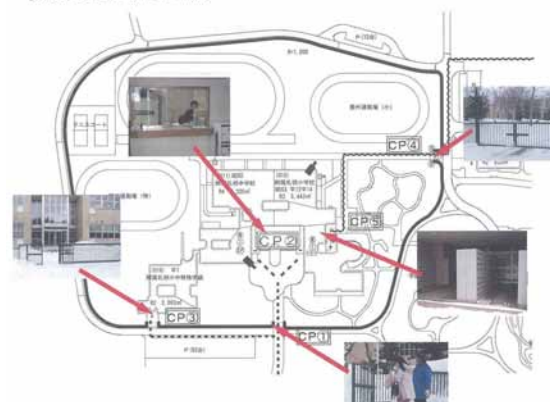
と児童・生徒間で約束された「緊急放送秘密ワード」を合図に訓練を実施し、併せて検証を行なっている。

課題の抽出

●動線と死角

防犯施設地図に、児童生徒の活動範囲と来訪者の動線、防犯カメラ・教員等の目が届く範囲について描き確認した。その結果、来訪者のチェック体制や防犯カメラ・教員等の目が届きにくい死角の問題点が発見された。

【入校者の動線とチェック箇所】



防犯施設地図 (動線と死角)



防犯カメラ設置の表示 (侵入防止の抑止力となる)

●空白の時間

正門警備員の体制、事務室の配置及び出窓の仕様、全校集会などの運営の状況等から生じる空白の時間についての課題が見出された。

●改善点をさぐる

検討会議では、問題とされた防犯施設・体制の

各事項について改善点をさぐるため、現状、有効性、問題点、対策の手順により、検討を行った。

マニュアルチェックリストの活用

マニュアル

- 本校の防犯対策の一層の充実に向けて、文部科学省等が作成した「学校施設の防犯対策に関する点検・改善マニュアル作成に関する調査研究報告書」の手順や留意点を参考に、本校の現状と防犯対策を踏まえて、効果的で実効性のある防犯マニュアルを作成することとした。併せてこれを、他の附属学校の防犯マニュアル作成の手本となることを意図した。

チェックリスト

- 防犯施設を定期点検するためのチェックリストを、点検の重要度に応じて、週点検と月・通年点検に分類して作成した。点検は、各防犯施設の防犯責任者が実施し、その点検結果については、学校だよりやPTA役員会等で公表している。
- このチェックリストはインターネットのWebを活用し、担当者、点検実施日、評価、改善内容、現状写真をアップしている。点検結果の集約が便利になるばかりでなく、全教職員が防犯体制の全体状況をいつでも把握でき、職員の防犯意識と実効性の向上に役立っている。



チェックリストのネット化

改善措置の実施

- 防犯施設・体制の改善措置については、定期点検や年1回ある防犯訓練・避難訓練の検証結果が

ら抽出された課題を、緊急に改善すべきもの(緊急改善)、改善を検討するもの(予算措置)に分類している。これを防犯施設地図に記録することにより、わかりやすく問題点を提起し、学内の学校施設小委員会で安全面から改善案を作成する。学校施設委員会で、改善案に対する予算面からの検討を加え、改善措置を計画的に実施している。

点検 改善の取組の周知、見直し

点検 改善の取組の周知

- 防犯対策の周知は、学校だよりや学校教育説明会の場を利用している。それとともに、本校ホームページ上の「附属小学校ニュース」でタイムリーに伝えている。この附属小学校ニュースは、毎日更新しており、学校関係者に好評である。また、学校だよりはホームページ上でも確認することができる。

点検 改善の取組の見直し

- 定期点検や年に各1回の防犯訓練・避難訓練の検証の評価を行っている。そこで把握された問題点の改善措置について、防犯マニュアル等に反映することで、防犯対策の見直しを行なうこととしている。

今後の課題

- 今後も継続的に防犯施設や防犯体制を改善・整備し、更に実効性の高いものにしていくことを課題としている。そのため、引き続き保護者を含む外部の専門家、有識者の意見の聴取や、学外の機関・組織等との連携協力を推進する。

研究会コメント

- 防犯に関する点検 改善マニュアルを作成し、実際に運用することを通して、教職員、児童生徒の防犯意識は、大きく向上している。
- インターネットを活用した、防犯施設の定期点検集約体制が効果的に運用され、全教職員がいつでも定期点検等の評価の進行が一目で確認できるなど、継続的な防犯意識の堅持につながっている。